

きになる梨情報



みんなで進めよう
茨城農業改革

第57号 平成29年4月21日 県南農林事務所 経営・普及部門(土浦地域農業改良普及センター)

今年は、昨年に比べ、4月上旬の降雨回数、降水量ともに多くなっています。既に落葉からの黒星病子の胞子の飛散は開始していると考えられ、芽基部病斑上での分生子による感染も含め、黒星病の発生するリスクが、非常に高いと思われます。

落葉処理を完全に行えなかったほ場、4月上旬から中旬の薬剤散布を、適期に行えなかったほ場では、特に注意が必要です。

黒星病の発生が多いほ場では、既に芽基部病斑が確認されています。薬剤散布の徹底、ほ場の徹底見回りによる芽基部病斑の除去に努めましょう。

また、この時期は、天候が不安定で、いつ降雹や晩霜害に見舞われるかわかりません。多目的防災網の早期展張、晩霜害対策の準備を行いましょう。

1 黒星病対策

(1) 薬剤防除

参考防除例に準じて、散布間隔が長くならないよう、天気予報をこまめにチェックし、散布のチャンスを絶対に逃さないようにしましょう。

薬剤散布は、農薬の登録内容及びドリフト等に気を付けながら、かけむらの無いように、十分量散布しましょう。少量でも足りるかな、と油断しないようにしましょう。

(2) 芽基部病斑の除去

芽基部病斑は、放っておくと感染源となり、降雨の度に次々と二次感染を引き起こします。芽基部病斑を薬剤で治療することは難しいため、早急に、病斑が残らないよう芽ごと切除し(写真1)、必ずビニール袋に入れて持ち出しましょう。



写真1 病斑は果そうごと切除

2 多目的防災網の早期展張

開花期前後の降雹害が増えています。多目的防災網を開花前に展張できなかったほ場は、早めに展張し、降雹等の気象災害に備えてください(写真2)。

なお、冷気がほ場にたまるのを回避するため、サイドは上げておくようにしましょう。

また、近年は、この時期の降雪にも注意が必要です。天気予報を確認しながら、展張した網を再度収束する等、網への積雪による棚の倒壊にも注意しましょう。



写真2 防災網で降雹を防いだ例